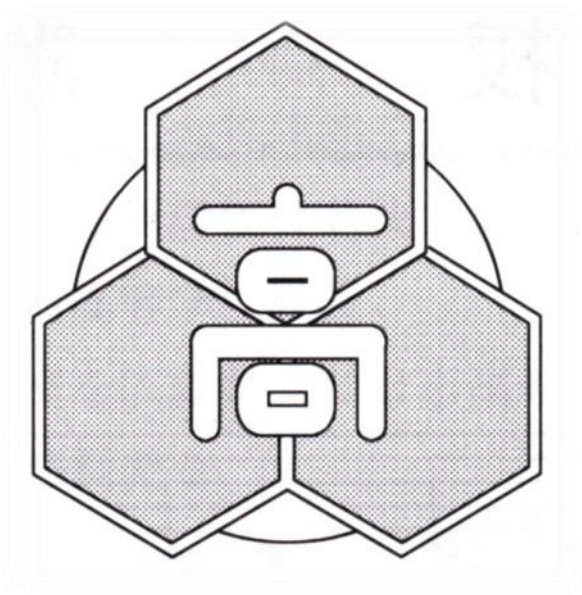


令和2年度学校経営計画
中間評価



広島県立廿日市西高等学校

令和2年度自己評価シート(中間評価)

校番	67	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	全日制	本校
----	----	-----	--------------	------	------	-----	----

学校経営目標							
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等		
1	「主体的・協働的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。						
	主体的な学び、協働的な学び、深い学びをすすめる。	(1) 生徒に付けたい力を念頭に置いた単元指導計画・年間授業計画の検証を行い、改善に取り組む。 (2) パフォーマンス課題を取り入れた授業を実施し、生徒の表現力や思考力・判断力を育成する。 (3) 資質・能力の評価の在り方について研究し、議論を深める。	A	・全職員が1学期に1回校内での授業公開を行い、授業改善に取り組んだ。「総合的な探究の時間」の研修において資質・能力の評価の在り方について各教科で話し合い共通認識を行った。	教務部		
	家庭学習習慣を身に付けさせる。	(1) 基礎基本定着のための課題を計画的に与え、家庭学習の記録をつけていくことで意識を高める。教員間においても各教科の課題内容を共有し、指導の徹底を図る。 (2) 生徒集会等の機会を利用して、授業や家庭学習を大切にする意義を講話に盛り込み学習に対する意識を高める。	B	・家庭学習時間は記録表や classi により担任等も把握し、指導に役立てている。試験前の学習時間に比べ、平常時の学習時間が少なく、習慣化の点で課題がある。			
	進路目標実現に向けた学力を伸長させる	(1) 進路別ガイダンスや個別面談を実施し、個に応じた情報提供や学習アドバイス等によるきめ細やかな指導を行う。 (2) 模擬試験の前の事前指導や事後の振り返り学習において、模試分析等活用し徹底させる。	A	・進路別ガイダンスや個別面談を計画どおり実施し、情報提供や意識啓発を積極的に行っている。 ・模擬試験ごとに事前指導と事後の模試分析を行い、目標点や志望校の設定、志望校研究を充実させた。			
	キャリア実現のための支援体制を確立する	(1) 学年会や担任と連携して資料提供を行い、進路実現に向けて生徒や保護者の意識改革を行う。 (2) 外部講師や就職支援専門員と連携し、面接指導や就職支援活動を行う。 (3) スタディーサポート分析会やデジタルサービス活用講座などを実施し、生徒の状況理解のための支援を行う。	B	・外部講師を招聘する際の制約はあったが、リモートで開催するなど新しい試みを行うことができた。 ・志望理由書講座や就職、進学別に面接指導講座を実施した。 ・生徒、教員対象別の分析会や3学年進路検討会議等を通して、指導方法について検討した。	進路指導部		
	挑戦を続ける受験体制を確立する	(1) 就職希望者に対しては、マナー講習や面接指導ならびに志望理由書の作成指導を組織的に実施する。 (2) 進路ガイダンスや面接により、各自の目標を諦めさせない指導を継続して行う。	B	・校内外ガイダンスを通して、就職の心構えや就職までの流れ、履歴書作成、面接指導等を実施した。 ・進学(国公立・私立)、就職などの進路別ガイダンスと小論文、面接、大学入学共通テストガイダンスなど入試形式別ガイダンスを実施し、意識啓発を行った。			

【評価結果の分析】

- 校内授業公開を全教員が2回以上行うこととし、授業改善に取り組んでいる。また本校の生徒につけさせたい資質・能力について各教科ごとに研修を行ったが、単元指導計画、授業計画の検証について今後も継続する必要がある。
- 家庭学習の記録については、家庭学習時間において1日の平均が平常時 86.9 分、試験前 136.5 分と昨年度より平常時は約 20 分、試験前で約 10 分増加している。各教科や分掌間の連携をより高め、家庭学習の習慣が定着していない生徒の数を減らすことが必要である。
- 進路別ガイダンスや入試形式別のガイダンス等を実施することで進学情報を提供し、学習方法や計画立案を促す取組を行った。
- 模擬試験デジタルサービスの活用時間を授業時間内に計画し、実施した。自宅で利用している生徒はごく少数であったが、classi の導入もあり、利用する生徒も増加している。
- 教員対象の研修会について、コロナ禍で実施できないものもあったが、生徒の状況と学習指導（スタディサポート分析）は定期的に行う予定である。また、3 学年では学期に1度の進路検討会を実施し、学年会内の生徒情報共有化と今後の指導について検討する機会を設けている。しかし、1, 2 学年での進路検討会はまだ実施できていない。
- 授業内で進路先の探究、志望理由書の作成や面接指導など実施はできているが、志望理由が深まらず作成に時間のかかる生徒が多い。また、面接指導に関して必要な生徒に事前ガイダンスを実施し、過去問題を各自調べて傾向を把握させるなど、自主的に行動するように仕向けた。今後は1, 2 年生からの学習集団作りをしていく必要がある。

【今後の改善方策】

- 2 学期の校内公開授業は ICT を活用した授業に取り組み、生徒の表現力や思考力・判断力を育成する。
- 資質・能力の評価の在り方及びカリキュラム・マネジメント研修を学校全体の問題として継続して取り組む。
- 模擬試験などの振り返りにおいて、進路実現をするために家庭学習が重要なポイントであることを意識付ける。学習の方法について、各教科に分析を依頼し、次回の模擬試験に向けてのアドバイスを行ってもらったものを classi で発信するなど情報の提供と意識付けを行った。今後も計画的に各教科と連携を図っていく。
- 早期に目標を設定させるために、1, 2 年生での進路別、分野別ガイダンスの実施や学校・学部研究を深める LHR を設定するなど進路研究を深める工夫を考察し、実践できる計画を立案していく。
- 担任が、生徒ときめ細かい面接指導ができるように引き続き情報提供を進める。また、教員に対してもデジタルサービス活用に関する情報提供やファインシステムの利用など呼びかけ、実際に活用してもらええる工夫を考えていく。

2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。				
生徒自らが探究活動に取り組む	(1) 進路指導部が中心となり、3年間を見通した「総合的な探究の時間」のプログラムを構築するうえで、解決すべき課題を明確化するとともに、必要な ICT 環境を整備する。	B	・廿日市市と連携する「ふるさと学習」において探究を意識したプログラムを構築した。ICT 機器を活用しているが、環境整備が遅れており、スムーズな利用には至っていない。	進路指導部
基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 時間を守ることを意識させるため、きめ細かい指導体制を構築し、組織的な指導と家庭との連携強化に努める。 (2) 月間目標の作成とキャンペーンを計画的集中的に実施し、意識の喚起を図る。 (3) 定期的な服装頭髪指導と日常の粘り強い指導を定着させる。	B	・生徒指導規程の見直しを図る一方、学校遅刻、授業遅刻について、丁寧に確実に指導することができた。 ・遅刻ゼロキャンペーンを実施した。 ・臨時休業により、服装頭髪指導が予定通りに実施できなかった。	生徒指導部
生徒が主体的に校内美化に取り組む。	(1) 「校内美化に関するアンケート」により実態を把握し、掲示板や校内放送により生徒の環境美化意識を高める。	B	・1 学期は取組が十分できなかったため、2 学期のクリーンキャンペーン期間に啓発活動や生徒会と協力し、校外清掃等の活動を計画している。	

【評価結果の分析】

- 8月末現在の遅刻者数は、延べ 338人（1年生 121人 2年生 108人 3年生 109人）であり（昨年度8月末 316人）、ここまでの1日平均遅刻者数は 4.17人である。
- 上半期の遅刻ゼロキャンペーンを実施した。梅雨時期であったこともあり、遅刻ゼロ達成のクラスは1クラスだった。
- 服装頭髪指導を受けた生徒の人数は、延べ141人（1年生 39人 2年生 43人 3年生 59人）である（指導票によるもの）。
- 学校評価アンケートは11月初旬に実施する。
- 「総合的な探究の時間」が3年間を見通したプログラムの構築には至っていない。これまでの「総合的な学習の時間」は進路色が強く、課題探究型にシフトチェンジするために教職員の意識の変化が必要不可欠である。

【今後の改善方策】

- 遅刻防止の意識を向上させるため、1人ひとり丁寧に粘り強く指導していく。また、下半期遅刻ゼロキャンペーンを11月に実施し、生徒の意識喚起をして遅刻減少に繋げていく。
- 生徒の身だしなみ等については、定期試験ごとの服装頭髪指導を継続して行うことと、日常から生徒の様子に注意し細やかな指導を継続していく。
- 服装頭髪指導のための保護者との連携を早目に行う。
- 遅刻防止のポスターを掲示し、後半の遅刻減少に繋げていく。
- 課題探究型のプログラムを実施するためにも教職員への研修に加えてICT環境の充実が必要になってくる。加えて検証が行える環境を充実させることで、様々な事象に抱いている興味や関心を生徒の自主的な活動に結びつけたい。

3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にすることを育てる。					
	部活動を活性化させる	(1) オリエンテーションや部活動集会を行い、部活動への加入を促す。 (2) 生徒朝礼等での賞状披露、大会等の成績公表や委員会の報告を通じて、部活動・生徒会活動への興味・関心を喚起する。 (3) 部長会を定期的に開催し、各部活動の取組を交流するなどにより主体的な活動を促す。	A	・放送等により、部活動紹介や賞状披露を行った。部長会では部室の使用に関する事項や部活動紹介における諸注意などを丁寧にを行った。	生徒会指導部
	自主活動を活性化させる	(1) 生徒会総務と生徒会指導部、特別委員会と各分掌との連携を図る。 (2) 部活動との連携を図り、キャンペーンなどを実施してボランティアへの積極的な参加を促す。	B	・生徒会総務と各委員会の合同早朝挨拶運動や校内清掃を実施した。総務役員と生徒会指導部、生徒指導部とが連携して取組を進めることができています。	

【評価結果の分析】

- 今年は新型コロナウイルス感染症の影響があり、体育館をはじめグラウンド等での集会ができず、各行事は中止または放送による実施など変更しながら取り組んでいる。文化祭や体育祭などの大きな学校行事は中止となったが、代替行事を行ったり、校内美化活動や早朝挨拶運動など生徒会総務を中心に他の委員会と協力してできるところから取り組んでいる。

【今後の改善方策】

- コロナ感染症の状況によるところは大きいですが、今までの行事や活動についてできるところから、各委員会などとも協力して活動していく。校内美化や挨拶運動については重点目標として今後継続して取り組んでいく。

4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。				
家庭・地域に向けて情報を配信する	<p>(1) 分掌や部活動において、生徒の活動写真と簡単な内容紹介をデータで情報提供してもらう体制を確立し、部活動・生徒主体の活動行事の90%以上をHPへアップする。</p> <p>(2) 学校評価アンケートの回収率が90%以上となるような様々な機会を通じて発信する。</p> <p>(3) 姉妹校との連携事業の実施内容等をHP、PTA新聞等で報告する。</p>	B	<p>・各種行事内容をHPへこまめに掲載している。</p> <p>・部活動について特定の部以外ほとんど更新されていないことが課題である。</p> <p>・コロナ禍の影響により、留学等の活動を今年度は実施できない見通しである。また、PTA広報誌の発行を今年度は見送ることとした。</p>	総務部
本校の教育内容を発信する	<p>(1) オープンスクール、学校説明会、出前授業等を通じ、近隣の中学校に本校の教育内容を発信する。</p>	A	<p>・コロナ感染拡大を懸念し、オープンスクールは中止としたが、模擬授業や部活紹介を取り入れた新しい学校説明会を10月24日(土)に実施する。中学校や学習塾への説明会は依頼があったものにはすべて参加した。</p> <p>・出前授業は近隣中学校へ案内済みだが現段階で依頼がない。学校案内を希望数、近隣中学校に配布した。</p>	

【評価結果の分析】

- 各分掌担当の行事について、終了後HPへ掲載することは徹底されてきた。一方、部活動については更新が少ないが、これは大会など1人の顧問で指導に当たっていることが多く、写真を撮ったり、原稿を作成したりする余裕がないことなどが要因と考えられる。また、年度当初にHPでの情報発信について依頼をしたが、その意義について教職員で意識を共有できていなかったことも要因と考えられる。
- オープンスクールはコロナ禍による休校措置に伴う夏季休業期間の短縮により、中止とした。例年11月に実施する入試説明会を「学校説明会」として内容を拡大し、体験授業なども含めて実施する予定で、オープンスクール並みの353人が参加を希望している。学習塾等の学校説明会も中止もしくはオンラインでの実施となったが、オンライン説明会には学校説明の動画を配信した。中学校より学校説明の依頼が2校あり、どちらも参加した。出前授業はオープンスクールの代替措置として中学校に案内したが、現段階では依頼はない。オープンスクール中止に伴い、近隣中学校には学校案内を希望する部数を配布し終えている。

【今後の改善方策】

- 中学生は高校での部活動について大変興味を持っており、部活動に関する情報提供は生徒募集の観点からも必要であることへの理解を図り、引き続きHP更新用のデータの提出を依頼する。HP掲載のやり方についても再度全体に周知する。生徒会や写真部・放送部などと連携して各部活動への取材などを検討する。
- 学校説明会で十分な説明を行い、オープンスクールに代わるものとなるようにする。今後、出前授業の依頼があれば学校説明なども含めて情報発信を行う。

5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。				
	教職員が生徒と向き合う時間を確保する	(1)職員連絡会等を行い、見通しと計画性をもって業務に取り組めるようにする。 (2)業務改善(スクラップアンドビルド等)を積極的に行い、重点的に取り組む内容を整理していく。	B	・校務運営会議や学年会で課題や情報の共有を図り、限られた時間の中で生徒に接する時間を確保するよう努めた。コロナの影響で年間スケジュールの変更や予定外の取組が増え、負担感も大きかった。
	教職員が業務の改善に取り組み、業務の質的な向上を図っている。	(1)ワークライフバランスを意識し、メリハリのある働き方を心がけるとともに、そのような働き方ができる環境づくりを行う。	B	・管理職との面談等を通じ、教職員のモチベーション向上を通して学校を活性化し、教育の質を向上させる環境づくりを目指した。また、毎週設定してある定時退校日の実効化に向け声かけ等を行い、超過勤務時間の軽減を図った。
				全体

【評価結果の分析】

- 見通しをもった業務の遂行に加え、定時退校日での定時退校時刻1時間以内での退校達成率60%を目指しているが、現状では50%ほどである。
- コロナによる臨時休業期間が約2ヶ月におよび、3ヶ月先の予定を組むことが難しい状況もあったが、今後の見通しを全教職員で共有し生徒の不安感を払拭できるよう取り組んだ。

【今後の改善方策】

- 重点的に取り組む業務を明確にするとともに、業務の精選・改善を進める。
- 業務改善について、衛生委員会、校務運営会議、及び職員会議にて、これまでの振り返りと課題を検証して後期の取組に反映させる。

令和2年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	067	学校名	廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	④・定・通	④・分
----	-----	-----	----------	------	------	-------	-----

経営目標	評価				
	A	B	C	D	評価なし
1 「主体的・協働的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。(5項目)	2	3	0	0	0
2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。(3項目)	0	3	0	0	0
3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にすることを育てる。(2項目)	1	1	0	0	0
4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。(2項目)	1	1	0	0	0
5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。(2項目)	0	2	0	0	0
計(14項目)	4	10	0	0	0

1 評価結果の分析

- 本校の生徒につけさせたい資質・能力について各教科ごとに研修を行った。単元指導計画、授業計画の検証について今後も継続する必要がある。
- 3年間を見通した「総合的な探究の時間」のプログラムの構築に至っていない。これまでの「総合的な学習の時間」から、課題探究型にシフトチェンジするための検討や研修が必要である。
- 今年は新型コロナウイルスの影響があり、体育館をはじめグランド等での集会ができず、各行事を中止または放送による実施など変更しながら取り組んでいる。文化祭や体育祭などの大きな学校行事は中止となったが、代替行事を行ったり、校内美化活動や早朝挨拶運動など生徒会総務を中心に他の委員会と協力してできるところから取り組んでいる。
- コロナ禍の中、業務の質的転換を図り、限られた時間の中で生徒に接する時間を確保するよう努め、今後の見通しを全教職員で共有し生徒の不安感を払拭できるよう取り組んだ。

2 今後の改善方策

- 今後もICTを活用した授業に取り組み、生徒の表現力や思考力・判断力を育成する。
- 資質・能力の評価の在り方及びカリキュラム・マネジメント研修を学校全体の課題として継続して取り組む。
- 早期に目標を設定させるために、1、2年生での進路別、分野別ガイダンスの実施や学校、学部研究を深めるLHR、「総合的な探究の時間」を設定するなど進路研究を深める工夫を考察し、実践できる計画を立案していく。
- 課題探究型の「総合的な探究の時間」のプログラムを実施するためにも、教職員への研修に加えてICT環境の充実が必要になってくる。加えて検証が行える環境を充実させることで、様々な事象に抱いている興味や関心を生徒の自主的な活動に結びつけたい。
- 遅刻防止の意識を向上させるため、1人ひとり丁寧に粘り強く指導していく。また、生徒の身だしなみ等については、定期試験ごとの服装頭髪指導を継続して行うことと、日常から生徒の様子に注意し細やかな指導を継続していく。
- 中学生は高校での部活動について大変興味を持っており、部活動に関する情報提供は生徒募集の観点からも必要であることへの理解を図り、引き続きHP更新を積極的に行う。
- 教職員のモチベーション向上を通して学校を活性化し、重点的に取り組む業務を明確にするとともに、業務の精選・改善を進め、教育の質を向上させる環境づくりを継続して目指す。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 各項目の評価にあたり、定性的な分析のみならず、定量的な指標を盛り込み、より客観性を上げたものとする。
- ICTIについて、環境整備と運用に係る課題を整理し、早急に対応と実践に取り組む。
- 学校ホームページの充実に加え、広報活動の具体策を検討し、講ずる。